

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 5月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	4071201000		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス新館		
所在地	福岡市西区今宿青木八丈792番地の4 〒819-0162 (電話) 092-805-8800		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年5月23日	評定確定日	

【情報提供票より】(平成19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人 常勤	14人 非常勤	2人 常勤換算 14.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての～ 1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～38,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(家賃3ヵ月 円)	無	
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり		1,270円程度

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

登録人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	3名	要介護2	11名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	名				
要支援1	名				
要支援2	名				
年齢	平均 85.8歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あおいクリニック・別府歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道近くの住宅地の一角に位置しており、外観は濃い茶を基本とした一般住宅風の作りである。ホーム横にあるお地蔵さんへの毎日のお参り、日々の散歩時の挨拶、近くのスーパーの利用、地区の清掃活動や回覧版回しなどを通じて、自然な形で地域交流への取り組みと地域での見守りが行われているホームである。介護計画の内容は、入居者の出来る事や出来そうな事、入居者の気持ちを把握し、入居者の暮らし方や出来る事を支援する内容となっている。入居者個々の外出傾向を良く把握しており、ドライブやお散歩など、その時々での支援が行われている。また、職員間で見守りの際の声かけや入居者の所在の確認、ユニット出入口の鳥の鳴き声のセンサー設置などから、入居者の安全面と自由な暮らしに配慮した対応が見られた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を受けて、外部評価結果を職員に提示しての協議が行われている。この過程において、人権擁護の講話へ参加するなどの取組みがある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価時は、職員が中心となって自己評価報告書を作成し、改善に関する内容について協議し、改善内容を作成するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 今月第1回目の運営推進会議を開催したばかりであり、実質的な運営推進会議を利用した取組みは、これからである。運営推進会議が地域との関わりを構築する契機となることから、運営推進会議の充実を図るとともに、積極的に活用し、質の向上に取組んでほしい。また、ホームへの理解の促進とホームがもつ専門性の還元をはたしていくためにも、運営推進会議の議事録の報告等、行政への積極的な働きかけが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8、9) 家族の来訪時の声かけや、電話連絡、担当職員作成の毎月の写真付きのお手紙と2ヶ月に1度のホームたよりの発行、家族会等、様々な場面を利用して家族とのコミュニケーションに努めている。また、管理者と担当職員双方から家族との通じて、思いや意見などの把握・表出に努め、話しあいやミーティングで協議を行うなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の散歩時の挨拶、子供会主催の夏祭りへの参加、地域で行われるスポーツ大会への参加、地区の清掃活動や回覧版回し、地域の理美容院や地域スーパーの利用など、自然な形で地域交流への取り組みがある。

2 . 調 査 報 告 (詳 細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、理念を作りかえ てはいないが、理念は入居者主体の理念であ り、入居者が地域に入っていくことを意識しな がら、全職員で関わっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	常に入居者の立場に立った考え方や見方を するよう指導が行われており、職員同士気がつ いたときに声をかけあい再確認を行うなど、理 念の浸透に取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	子供会主催の夏祭りへの参加、地域で行われ るスポーツ大会への参加、地区の清掃活動や回 覧版回し、地域の理美容院の利用や地域に在る スーパーの利用など、自然な形での地域交流へ の取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果を受けて、人権擁護の講 話へ参加するなどの取組みがある。外部評価 時は、職員が中心となって自己評価報告書を作 成し、改善に関する内容について協議し、改善 内容を作成するなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今月第1回目の運営推進会議を開催したばかりであり、実質的な運営推進会議を利用した取り組みは、これからである。		運営推進会議が地域との関わりを構築する契機となることから、運営推進会議の充実を図るとともに、積極的に活用し、質の向上に取り組んでほしい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人組織としてのグループホームセンター長が、疑問などが生じた場合は、行政担当者へ問い合わせしているが、ホームから直接の問い合わせや相談等、働きかけは未だ行われていない。		ホームへの理解の促進とホームがもつ専門性の還元をはたしていくためにも、運営推進会議の議事録の報告等を通じて、行政へ積極的に働きかけてほしい。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度利用の実例なく、必要と思われる家族等に対して説明をおこなうも、その他の家族に対しての説明等の働きかけは、未だ行っていない。		必要と思われる家族等のみでなく、家族会やホームたより、運営推進会議等を利用して、広く情報を発信して、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるように支援してほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時の声かけや、電話での報告がある。また、担当職員作成の毎月の写真付きのお手紙と2ヶ月に1度のホームたよりの発行、家族会等にて、入居者の状況や暮らしぶり、ホーム行事等のお知らせや報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時の説明、管理者と担当職員双方から家族との関りを通じて、家族等の思いや意見などの把握・表出に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のメンタルヘルス面を考慮して、系列内での異動はあるが、基本的には受け持ち制である。新しい職員が入る時は、入居者の尊敬の念を持って接するよう指導しており、顔なじみのスタッフがカバーして対応するような取組みがある。		
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に関して、何ら制限はしていない。職員の特技を活かし發揮できるようにリーダー配置したり、上の資格を目指す職員に対しては、情報の提供を行ったり、休みの調整を行うなど、配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	校区や行政区で行われる、人権学習会への参加を通じて、職員の人権意識を喚起する取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を掲示し職員の参加を募ったり、職員のスキルを見て管理者が参加させるなど、まんべんなく外部研修へ参加できるような配慮がある。また、ミーティングにおいて報告会を行うなど、他の職員への周知への取組みもある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協議会主催の研修に職員が参加し、他のホームでの体験学習等を通じての交流がある。また、情報交換を通じて、質の向上につながることを積極的に取り入れている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、管理者と主任が面談に赴き、顔なじみの関係を作ったり、入居時の私物の持込を少なくし、徐々に馴染んできてから私物を増やしたり、事例は無いがホームでのデイサービスやショートステイ利用も可能であるなど、入居者・家族等の状況に応じた対応がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花の生け方、畑の畝の作り方、食材の選び方など、日常のかかわりの中で、入居者の方々が持っている知恵を聞かせて頂くなどの取り組みがある。食材のきり方や糠漬けの食べ時を聞くなど、自然な対応が見られた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々のかかわりを通じ、入居者の状態を良く観察し、入居者の希望や意向の把握に努め、日常の会話を通じて確認するなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時の声かけやお手紙、お便り等を通じて、家族の希望や思いの把握に努め、カンファレンス時に他の職員との意見交換を行い、介護計画を作成している。介護計画の内容は、入居者の暮らし方や出来る事を支援する内容である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の評価と目標に対しての結果、身体状況などにより、適宜見直しを行い現状に即した介護計画の作成がある。また、職員の意見を持ち寄っての月1度のカンファレンスが行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出傾向の強い入居者の入院時の付き添い、以前住んでいた住居の見学、娘さん宅の訪問など、家族の状況や入居者個別の特別な希望に対しての対応がある。また、認知症の理解を促進するため、体験学習の受入れについても検討している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医があり、2週間に1度の往診がある。今までのかかりつけ医への受診は、家族対応にてお願いし、どうしても家族対応が無理な場合のみホームで対応するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合の意向をとっている。日々のかかわり中から入居者本人の希望を聞き、状態の変化に応じて、入居者の希望を重視しながら、その都度家族と協議するなどの取組みがあり、職員間での周知と共有が図られている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者の様子を良く観察した上での 排泄時の耳元での声かけ誘導、何気ない会話の 中で衣類の乱れを直したり、廊下ですれ違った 時に手にしていた入居者の下着類をさっと隠 すなど、プライバシーに十分配慮した対応が見 られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	外部調査当日、本を持ってこられた入居者 に対して丁寧にお礼を述べたり、食時をとるタイ ミング、食事にかかる時間、下膳のペース、食器 洗いのペースなど、日常の流れにおいて、入居 者一人ひとりを尊重した支援が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員が一緒に準備や食事、片付けを している	昼食は配食サービスを利用しているが、夕食 と朝食はホームで作っており、メニュー作成、 買い物時の食材選び、野菜切り、盛り付け、下膳 など、入居者と職員が一緒に行っている。職員 は、入居者と一緒に食事を取っており、和やか な雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日入浴でき、入浴時間帯の決まりはなく、 21時まで入浴可能である。入居者毎にお湯 を入れ替え、入居者の好みの入浴剤の使用や好 みの入浴温度にし調整するなど、ゆっくりと入 浴していただくための配慮がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居者一人ひとりの出来る事や出来そうな 事を把握し、新聞取り、野菜の皮むき、盛り付 け、刺し子、生け花、お地藏さん参り、庭仕事 の手伝いなど、役割や楽しみごととして介護計 画に位置付けての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩、買い物、お地藏さん参りの他、入 居者所有の畑での収穫や法要での外出、ホーム として外食に出かけるなど、入居者の希望や状 況に合わせての外出の支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	職員は、施錠することの弊害を認識しており、 日中は開錠されている。入居者個々の外出 傾向を把握してのドライブや散歩などの支援が ある。また、職員間で見守りの際の声かけや入 居者の所在の確認、エントリ出入口のセンサー 設置など、安全面と自由な暮らしに配慮した対 応が見られた。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練の実施を通して、避難経 路や避難場所についての確認を行っている。 2回のうち1回は、消防署の立会いの基行わ れており、専門家の立場からのアドバイスを受 けている。いざという時の、近隣への協力要請 はこれからである。		非常災害時における協力体制等を運営推進 会議で提案したり、避難訓練時の地域住民の参 加をお願いするなど、いざという時の地域との 協力体制作りへ取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は配食サービスを利用。夕食と朝食の メニューは職員と入居者が考えて作っており、 メニューを基に、系列施設の栄養士の方からア ドバイスを頂くなど、栄養面での配慮がある。 また、食時の摂取量のチェックと必要な入居 者に対して水分量のチェックを行い把握してい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	日差しは、カーテンや障子で調整し、窓の開 閉により自然の風がリビング内を流れ、過 ぎしやすく居心地良い空間であった。また、季節を 感じる生花やカレンダーなど五感へ働きかけ る工夫が見られた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	和室の居室やフローリングの居室など、入居 者の生活習慣を重視した居室作りがなされて いる。居室には、TV、机、本、筆筒などの馴染 みの物が持ち込まれており、入居者の人柄が窺え る居室であった。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号